

第3回通常総会(書面表決による実施)のご報告

令和2年6月27日(土)、新潟ふれ愛プラザで、第3回通常総会と勉強会(「先天性難聴の遺伝カウンセリング」新潟大学医歯学総合病院遺伝医療支援センター・認定遺伝カウンセラー栗山洋子先生)を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止とし、総会については書面表決により実施いたしました。

正会員38名のうち書面表決書提出者28名で総会は成立し、議長・議事録署名人の選任案、平成31年度の事業・決算報告案、令和2年度の事業計画・予算案について、提出者全員の賛成により、承認していただきました。(議案書等は当法人のホームページに掲載しています)

当面、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、相談における訪問活動を見合わせるなど、なかなか従来どおりの活動は難しい状況ではありますが、できる限り各種活動を継続して実施してまいりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

これからの「難聴児の早期支援体制」について特集します

エールだより第13号(2020.2.14)で「難聴児の早期支援体制」を特集いたしました。その後の情報等について、今回も特集でお知らせします。

①精密聴力検査機関と二次聴力検査機関

新生児聴覚検査でリファアといわれた後に実施されていた精密検査の体制が変更されました。(一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会ホームページ2020.3.31掲載)

《「魚沼基幹病院」が新たに追加されました》

今後は、精密聴力検査機関と二次聴力検査機関となります。新潟県では、これまで5つの精密検査実施医療機関でしたが、この5つが精密と二次に分けられるとともに魚沼基幹病院が二次として新たに加わりました。これを機会にさらに県内の検査・受診・療育支援の連携が充実されることが期待されます。

精密聴力検査機関

長岡赤十字病院、新潟大学医歯学総合病院

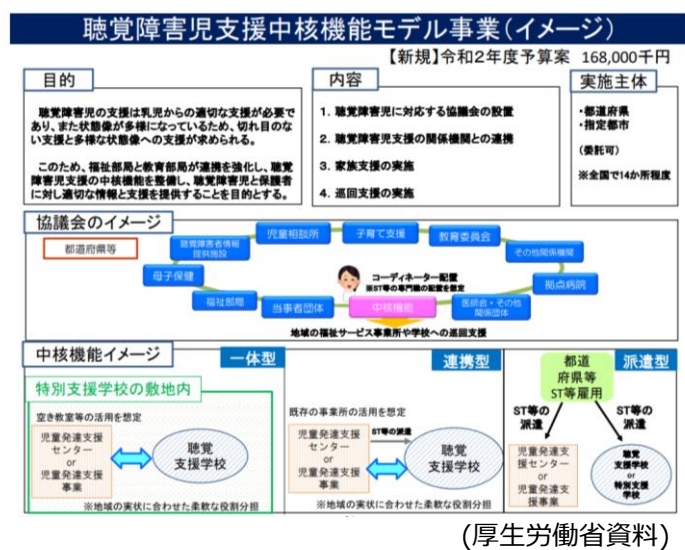
二次聴力検査機関

ふじわら耳鼻科、新潟市民病院、新潟県立中央病院、魚沼基幹病院

②難聴児早期支援の中核機能

難聴児早期支援の「中核機能」ですが、これは、昨年の「難聴児の早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携プロジェクトチーム」(厚生労働省・文部科学省合同)の報告(2019.6.7)の中で今後の具体的な取組みとして「各都道府県に1か所以上、難聴児支援のための中核機能を整備することを旨とする」とされているものです。

その方向性に合わせて厚生労働省が令和2年度の新規事業として概算要求した「聴覚障害児支援中核機能モデル事業」(全国で14か所程度)の実施要綱(案)では、「聴覚障害児に対応する協議会の設置」、「聴覚障害児支援の関係機関との連携」、「家族支援の実施」、「巡回支援の実施」が事業内容として定められています。



《国の指針により県で整備する計画を策定することに!!》

そして今般、「中核機能」の具体的な整備実現の道筋として、都道府県が令和2年度に策定する第6期「障害福祉計画」(R3~5年度)のための国の基本指針において「令和5年度末までに各都道府県において、難聴児支援のための中核的機能を有する体制を確保することを基本とする」との内容が追加される改正(2020.5.19告示)が行われました。

新潟県においてどのような「中核機能」が検討され、具体的に整備されていくかはこれからの話しになりますが、関係者にとって大変明るくうれしい動きであり、期待するとともに、きこえエール新潟としても検討・実現に向けてお力になれることがあれば、できる限りの協力をしていきたいと考えています。

特定非営利活動法人きこえエール新潟

《相談申込ダイヤル》080-3211-3700

(午前9時-午後7時30分)

《相談申込アドレス》kikoe_soudan@yahoo.co.jp

ホームページ:「きこえエール」で検索

【事務局】950-3373 新潟市北区須戸3-3-14

kikoe_yell@yahoo.co.jp

理事長 桑原 桂

会員数: 正会員38名、賛助会員 個人37名 団体2 企業3